

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝



「ポレポレ交流会」

7月30日（日）、能代市子ども館で能代市・山本郡内特別支援学級在籍児童生徒及び保護者の「ポレポレ交流会」が開催されました。子どもたちはフィルムケースを使ったロケットを作り、外で飛ばした後、プラネタリウムを楽しみました。並行して、保護者の皆さんの情報交換会も行われましたので、その一部を紹介します。

【保護者からの相談内容】

Q：小学校卒業後、中学校の特別支援学級、通常の学級、特別支援学校中学部への進学に当たり、最低限これだけは身に付けておくべきことを知りたい。



→私からの情報提供

(1) ヘルプを出せるスキル

学校卒業後の目標は、「自立と社会参加」である。自立とは、全て自分の力で生活することではなく、最小の支援で最大の力を発揮しながら、自分の役割を果たすことである。子どもが一人で悩みを抱えて辛い思いをしないように、困ったとき「助けて、教えて」と、援助を求めるスキルを身に付けることが大切である。

(2) 挨拶をする・ルールを守る・清潔にする（障害のある子どもをもつ保護者が大切にしたこと）

①自分から挨拶をすること

挨拶は、人が人として生きていく上で、最も大切な流儀であり、相手の存在を認め、自分の心を開くことになる。挨拶ができると、周りから可愛がられる。困っているときに、みんなが助けてくれる。

②ルールを守ること

自分で行動にブレーキをかけられるようにルールを視覚化して実践する。役割＝お手伝いを与え、自分のやりたいことよりも、家族のためにやるべきことを優先して行動できるようにする。ほめる回数を増やして自己肯定感を高めることにもつながる。

③清潔にすること

第一印象がよければ、相手と良好な関係を築くことができる。清潔感があることを前提に、相手から信頼されるような身だしなみを意識する。服装の乱れは心の乱れである。身なりを整えることは、心を穏やかにすることでもある。

特別支援学級は子どもの実態に合わせて、手厚い指導を受けられるので、とてもありがたいという声が多く聞かれました。その一方で、通常の学級での「交流及び共同学習」は子どもの負担になっているのではないかと心配する意見がありました。「個別の指導計画」を基に、子どもの目標・手立てを再確認するとともに、保護者と共通理解を図ってほしいと思います。

保護者が悩みを打ち明けられる機会が少ないという声がありました。各学校での面談、「ポレポレ交流会」のほかに、気軽に保護者の方が集える場や飲みニケーションできる機会もあればよいと感じました。



とれたて直送便



「ぐちゃぐちゃ」～第22回NHKハート展より～

ムリして笑顔をつくって 心がぐちゃぐちゃになるより
思いっきり涙流して 顔がぐちゃぐちゃになる方がいい

うれしいときはうれしい顔を、辛いときは辛い顔を見せることって、とても大事なことです。保護者は悲哀・悲嘆が常に内面に存在し、就学や卒業等、節目節目で不安を感じます。保護者と本音で語り合い、まずいことも言える、聴ける関係づくりを目指し、ハードルをステップに変える支援を目指しましょう。